

デンマークにおけるケアスタッフ養成の現状と課題

－日本の介護福祉士養成への示唆－

○神戸親和女子大学 成清 美治 (001504)

社会保健ヘルパー、社会保健アシスタント、介護福祉士

1. 研究目的

ケアワーカーの社会的評価並びに経済的地位は福祉先進国においても必ずしも高評価ではない。わが国でもケアワーカーの職場は3Kといわれて久しいのである。

こうした状況の中でデンマークのケアスタッフの養成は他の福祉先進国と異なって特徴あるものとなっている。

このテーマの研究目的は、特色のあるデンマークの介護専門職である SSH(Social-og Sundhedshjælper:社会保健ヘルパー)と SSA(Social-og Sundhedassistant:社会保健アシスタント)の養成課程を検証し、その現状と課題を明らかにすると同時に我が国のケアスタッフの中核である介護福祉士養成課程の再検討を示唆することにある。

2. 研究の視点および方法

研究視点として、ケアワーカーの養成課程、専門性、社会的評価等とした。

また、研究の方法として、2014年9月14日～9月21日のデンマーク・ネストヴェズ(コムーネ)市高齢者ケア視察において、SOSU (Social-og Sundheds skolerne:社会・健康スクール) うちのネストヴェズ市の SSH・SSA 養成校を訪問し、講義と実技を視察すると同時に同校配布の資料並びにデンマークの教育・福祉に関する文献等を参照した。

3. 倫理的配慮

ネストヴェズ市の SOSU の SSH、SSA の養成校では、事前に当校の責任者の許可のもとで実技を視察すると同時に、SOSU の組織・履修内容について講義を受けた。

4. 研究結果

デンマークの高齢者ケアスタッフの養成を理解するためには、まず、デンマークの教育理念と制度を理解することがポイントであることが分かった。同国の社会基盤は(=民主主義)の3要素の理念に基づいている。すなわち、自由=自己決定、平等=言論の自由、博愛=連帯である。デンマークの教育制度も同理念に依拠している。

この理念の下で、同国の教育は幼児教育から始まっている。生徒は国民学校(日本の小・中学校に該当)を卒業後、高等学校或いは職業別学校を選択する。職業学校を選択した者は進学年齢が18歳未満の者は準備教育を1年間受ける。また、この期間はモラトリアムでもあるので、進路変更も可能となっている。

SOSU には12コース(①自動車・航空機②建築土木関係③建物・保全管理④動物・植物・自然関係⑤美容関係⑥食品・食料関係⑦メディア関係⑧生産・開発関係⑨電流・制御関係⑩保健・介護・教育関係⑪運輸・物流関係⑫商業)があり、ネストヴェズ市の SSH、SSA

は⑩属する。SSHの修業年限は1年2か月、SSAの修業年限は1年8か月となっている。つまり、ケアスタッフの養成はトータル3年で完結となっているのである。また、デンマークのSSH・SSAの養成の最大の特徴は①在学中の身分は入学と同時にコミュニティ所属となる②年齢による相違はあるが、身分がコミュニティに属する為、コミュニティの職員として給料が支給される。そのことが将来の雇用不安を払拭している。ただし、課題は①デンマーク人以外の学生の多くがデンマーク語の習得が困難であるため退学する者がいる。②今後、認知症高齢者の増加に伴うケア・ニーズの高度化に備えてSSHを廃止し、SSAの一本化が考慮されている。図-1は日本の介護福祉士の養成とデンマークの社会保健介護士(SSH・SSA)の養成課程の内容の相違を示したものである。注:ドイツの老人介護士の養成期間は3年。

図-1.日本とデンマークの介護福祉士と社会保健介護士の養成の相違

①日本の場合(2年課程)			②デンマークの場合		
介護福祉士	人間の仕事と自立	30以上	[社会保健ヘルパー]: 1年2か月、(理論1/3、実習2/3) 尚、総時間数は 1,680 時間である。 ・実技科目:栄養学、家政学、介護学、保健学等 ・文化活動科目:デンマーク、海外の文化等 ・教育・心理科目:コミュニケーション、カウンセリング等 ・社会福祉科目:社会サービス法、社会状況、生活環境 ・介護科目:病気予防、 基礎看護 、 救急処置 等 [社会保健アシスタント]: 1年8か月(看護学30% 、 医学25%)、尚、総時間数は 2,310 時間である。 ・看護・保健・医学関係:看護学、保健衛生、病気予防等 ・医学:解剖学、生理学、微生物学、伝染病、医療器具等 ・その他:教育学、心理学、 社会福祉 、文化活動、職員管理等 ・選択科目:国語、物理学、外国語、数学等	[社会保健ヘルパー]: 1年2か月、(理論1/3、実習2/3) 尚、総時間数は 1,680 時間である。 ・実技科目:栄養学、家政学、介護学、保健学等 ・文化活動科目:デンマーク、海外の文化等 ・教育・心理科目:コミュニケーション、カウンセリング等 ・社会福祉科目:社会サービス法、社会状況、生活環境 ・介護科目:病気予防、 基礎看護 、 救急処置 等	
	人間関係とコミュニケーション	30以上			
	社会の理解	60以上			
	以上2科目を履修のほか、人間と社会に関する選択科目				
	小計	240			
	介護の概要	180			
	コミュニケーション技能	45			
	生活支援技術	300			
	介護実践	120			
	介護総合演習	120			
介護実習	420				
小計	1200				
社会福祉士	介護と老化の理解	45	[社会保健アシスタント]課程修了者は上級資格である ソーシャルワーカー、理学療法士、作業療法士、看護師、 等課程への進級が認められている(修業年限3年)		
	認知症の理解	45			
	障害の理解	45			
	二つ以上から2科目以上	120			
	小計	300			
	合計	1800			

21

5. 考察

本研究を通じて明らかになったのは、デンマークの社会保健ヘルパー、アシスタントの養成カリキュラムが実習主体としたものとなっている。また、講義科目に看護・医学関係の科目が含まれている。例えば、修業年限が1年2か月のSSHで総時間数は1,680時間であるが、そのうち実習(高齢者施設、ホームヘルプ等実習)が2/3年、理論学習が1/3となっている。また、SSH資格取得後、進級するSSAの修業年限は1年8か月で、総時間数が2,310時間となっている。そのうち実習(一般病院、精神科病院、自治体実習等)が1/2以上、残りが理論となっている。つまり、3年間の総業時間は、3,990時間となっている。我が国の社会福祉士養成と比較すると①修業年限は2年と1年2か月+1年8か月=3年②総時間数は2年で1,800時間と1年2か月で1,680時間+1年8か月で2,310時間=3,990時間③科目内容の相違(特に看護・医学関係等)④身分保障⑤授業料等がある。これらの問題点並びに今後のニーズの高度化を考慮して、介護福祉士養成の再考を促したいと思う。